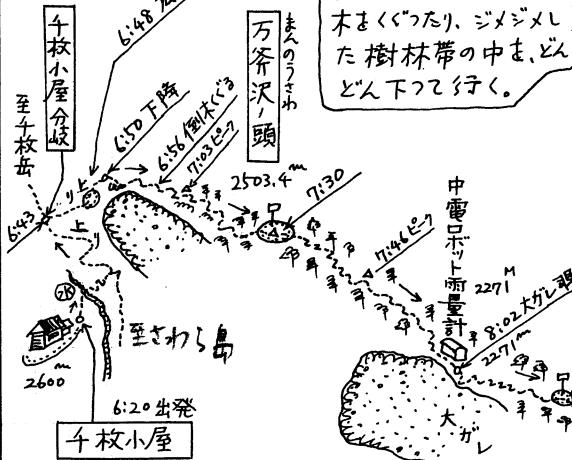


今日は最後の1日である。天気は朝から晴れて、紅葉を楽しみながらフィナーレを飾ろう。6:50下降に入ると千枚ガレより見下しながら展望がいいに次々現れるテラーフやキレには案内されて迷うことない。本道の下りは、コブを巻いたり、倒木をくぐったり、ジメジメした樹林帯の中を、どんどん下って行く。



塩見平も樹林の中、これより下は道が悪く、急下降石段状や根っこをまたいだり、石がゴロゴロ狭い所を抜けたり、もう下りも食事食をして10分程休憩する速い速度で下り過ぎるのでヒザが少しこえてくる。よくいう膝が笑うと/orこのことが?

マンナーの頭は樹林の中、期待してた展望は全然駄目で、休憩無し。下るすの道を倒木をくぐり、さらに下つたり、よく上り下りしながら、大勢休憩したらしく広場につく。これでピーナツで、どんどん急下降していく。暫くして千枚岳南送信所と書かれたロボットのそばを通れば大ガレの縁へ出る。



昼食には一休憩。車云付山峠越えするには腹ごしらえしなけりや登れないとだろう。ロッジの下(1階の水場)でラーメンを煮て食べるあとから2人パーティーが着く。

二軒小屋ロッジの立派な建物の前を通り、次の前の道標よりお官の前から左へ廻り込む車云付山峠越えの道を登る。最後まで1km以上のゆで息の切れない程度の誠に理想的な勾配で、3人の歩調も揃って快適な登りだ。時々枝の間から赤石岳が現れ、涼しい風が爽快を感じさせる。

良い道はコースタイムより速く歩けることは少ない。林道と同じように車云付山峠へ登りも1時間30分から10分ぐらしが短縮できない。峠は広く石標・山神様、東海ハルの大きな看板があり、周囲は毎年おまわせ、南方の荒ヶ岳への稜線が続いている。峠より山梨県側へ下ること5分で良清水が溢れ、ドクダツツツジ、ナナカマドなど余白は紅葉の最盛期で美しい。



ここで2回目の昼食パン食べる。ベターをしっかりつけて最後の下りに耐えなければ……冷たい沢の水を一杯飲んで沢を渡り返して内河内の沢に沿つて左岸を下る。

吊橋の前へ下るが、保利沢小屋はなく、コンクリートの建物と遭難碑がうしろに立っている。
（注意）吊橋は渡らないこと。右岸へ渡ると保利沢のダムで行き止まり。



鉄塔のあるピークから登り口までは難コース、ハンゴ・ガレ場滑り降りザシ場、10kgの岩壁に掛けた棟敷道と木段の連続、最後鐵ハンゴ段をおりて神社前より道路へ

リポート 1975.10.16 (木)

新倉 身延 静岡 名古屋着
8:00 → 9:25
急 9:30 → 11:10
こだま 11:12 → 12:30

